

## 現行計画の目標と達成状況

基本目標 1（機能性） 交通ネットワークでつなぐコンパクトなまちづくり				
指 標	H28	現状値	増減	目標値(R3)
①車を運転しない人 <sup>1</sup> のお出かけ回数が「週に 3～4 日以上」の割合	男性 49% 女性 52%	男性 74% 女性 37%	男性 25%増 女性 15%減	男性 60% →(達成) 女性 60% →(未達成)
<p>(指標の意図)</p> <p>日常的に自動車の運転をする人としいない人では、外出頻度に大きな差がみられる。公共交通を充実させることにより、自動車を持たない人も安心して外出できるまちづくりを目指す。</p> <p>(算出方法)</p> <p>町民を対象とした意向調査を行い、その調査結果に基づき算出する。</p>				
<p>(達成状況)</p> <p>自動車を持たない人の外出回数は、男性で 25%増に対して女性は 15%減であった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対応による外出自粛等の影響も推測される。</p>				
指 標	H27	現状値	増減	目標値(R3)
②町民バスの年間利用者数	67 千人	32 千人	35 千人減	70 千人 (未達成)
<p>(指標の意図)</p> <p>震災直後の平成 24 年度は、町民バスの便数を増やし、さらに無料だったこともあり、町民バスの利用者数は大幅に増え、7 万人を超える利用があった。この時の人数を潜在的な利用ニーズと捉え、7 万人の利用を目標とする。</p> <p>(算出方法)</p> <p>運行事業者が記録する利用者数の実績をもとに算出する。</p>				
<p>(達成状況)</p> <p>町民バスの利用者は、生活再建先のハード整備など復興事業の進捗と、応急仮設住宅団地の閉鎖とともに、年平均で 7000 人の利用が減少している。</p>				

<sup>1</sup> 町民アンケートで、「持っているが運転しない」、「免許を持ったことがない」、「返納した」と回答した人の合計。

基本目標 2（持続性） 効率性の高い持続可能な交通体系				
指 標	H27	現状値	増減	目標値(R3)
町民バスの収支率（運行経費に占める運賃収入の割合）	25%	16%	9%減	25%以上（未達成）
<p>（指標の意図）</p> <p>公共交通の効率性を高め、持続可能性を確保するためには、利用状況に応じて運行方法やサービス水準（便数や経路、運賃等）を設定し、健全な運行経費水準とするとともに、利用促進を行い、利用者数を増やす取り組みが必要である。運行経費の適正化と利用者数の増加を反映させた指標として収支率の維持または改善を目指す。</p> <p>（算出方法）</p> <p>運行委託実績から、運行経費に対する運賃収入の割合を求める。</p>				
<p>（達成状況）</p> <p>利用状況を踏まえつつ便数や経路を見直したが、町民バス利用者の減少に伴い、収支率も低迷が続いている。</p>				
指 標	—	現状値	増減	目標値(R3)
大槌駅の乗車人数	—	69 人／日	—	298 人／日（未達成）
<p>（指標の意図）</p> <p>町民バスの接続や交通結節点としての駅前広場の整備等の取り組みを進め、町の公共交通ネットワークの中心となる大槌駅の乗車人数の向上を目指す。</p> <p>目標値は、推計によって求めた人数を達成することを目標とする。</p> <p>（算出方法）</p> <p>利用実績から、大槌駅の乗車人数を求める。（予定）</p>				
<p>（達成状況）</p> <p>三陸鉄道利用者数は、イベントなどの催事列車では利用者が増加しているのに対して、定期的な利用者は見込みより減少している。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対応による外出自粛等の影響も推測される。</p>				

基本目標 3（利便性） 誰もが移動しやすい交通環境				
指 標	H28	現状値	増減	目標値(R3)
外出やお出かけを不便と 感じない割合 <sup>2</sup>	44%	52%	8%増	50% (達成)
<p>(指標の意図)</p> <p>誰もが移動しやすい交通環境をつくることで、外出やお出かけを不便と感じない町民が増え、気軽に外出し、暮らしの豊かさとともに町のにぎわいを創出することを目指す。</p> <p>(算出方法)</p> <p>町民を対象とした意向調査を行い、その調査結果に基づき算出する。</p>				
<p>(達成状況)</p> <p>お出かけの移動手段では、乗合を含めて自家用車を利用する方が増加している。</p>				
指 標	—	現状値	増減	目標値(R3)
大槌駅に乗り入れる路線 バス便数	—	50 便/日以上 (平日)	—	48 便/日以上 (平日) (達成)
<p>(指標の意図)</p> <p>町内外のスムーズな移動を実現するためには、交通結節点である大槌駅を発着する路線バスの一定の便数確保が重要となる。</p> <p>町民バスは 1 日 24 便（金沢小鎚線 12 便、循環線 12 便）の乗り入れを実現するとともに、県交通バス等の広域バスについても同様の乗り入れを目指す。</p> <p>なお、県交通バスは、鉄道の運行再開に伴いダイヤの見直しが想定されるが、町民バスと同水準以上の便数は確保されるものと仮定し、目標値を 48 便／日以上とする。</p> <p>(算出方法)</p> <p>大槌駅に乗り入れる路線バスの便数を算出する。</p>				
<p>(達成状況)</p> <p>大槌駅に乗り入れる路線バス便数の内訳</p> <p>県交通バス… 1 日 32 便</p> <p>町民バス… 1 日 18 便（金沢小鎚線 8 便、循環線 10 便）</p>				

<sup>2</sup> 町民アンケートで、「あまり不便だと感じない」、「まったく不便だと感じない」と回答した人の合計。

指 標	H28	現状値	増減	目標値(R3)
<b>バスシェルター整備箇所数</b>	<b>3 箇所</b>	<b>4箇所</b>	<b>1箇所増</b>	<b>5 箇所 (未達成)</b>
<p>(指標の意図)</p> <p>バスの利便性を向上させる策のひとつとして、バスシェルターの設置が町民アンケートからも読み取れる。</p> <p>現在、町内にはマスト前、県立病院前、恵水講の 3 カ所においてバスシェルターが設置されているが、今後も利用の多いバス停やニーズの高いバス停を中心に、バスシェルターの設置数を増やしていく。</p> <p>(算出方法)</p> <p>上屋、ベンチ、風よけの 3 つが整備されたバスシェルターの箇所数を算出する。</p>				
<p>(達成状況)</p> <p>バスシェルターは大槌駅を新たに位置づけた。</p> <p>また、利用者の声のもと、4 箇所のバス停にベンチを設置した。</p> <p>※設置したバス停留所</p> <p>県営屋敷前アパート、松の下、大ケロー丁目町営住宅前、旧きらり商店街前</p>				